

ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成13年 **2001.10**
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第61号

TOPNEWS

医学部附属病 新病棟完成



祝辞

金沢大学医学部附属病院
病棟完成記念式

わが国でも有数の規模を誇る本学医学部附属病院の新病棟が、宝町キャンパスに完成した。10月1日より開院した。

9月7日、新病棟完成を記念し、医学部附属病院新病棟内で、式典及び祝賀会を挙行了した。

式典では河崎一夫医学部附属病院長が式辞を述べ、続いて林学長が新病棟完成までの経緯と謝辞を述べた。併せてがん研究所附属病院との統合によるさらなる地域貢献を表明した。

来賓として森喜朗前内閣総理大臣、文部科学省小田島章大臣官房文教施設部長、杉本勇寿石川県副知事(石川県知事代理)、山出保金沢市長から祝辞が述べられた。前田廣志施設部長が工事概要を報告し、林学長及び河崎病院長から関係者へ感謝状贈呈が行われた。

式後、新病棟の見学及び記念祝賀会が行われた。〔3頁に関連記事〕

森喜朗前内閣総理大臣、馬淵宏医学系研究科長(左)と林学長(左から2人目)



祝辞

小田島章文部科学省
大臣官房文教施設部長



祝辞

杉本勇寿石川県副知事
(石川県知事代理)



祝辞

山出保金沢市長



テープカット

左から 澤武紀雄がん研究所附属病院長、馬淵医学系研究科長・医学部長、河崎一夫医学部附属病院長、森喜朗前内閣総理大臣、林学長、小田島章文部科学省大臣官房文教施設部長、谷本雅明文部科学省高等教育局医学教育課大学病院指導室長、水上修一事務局長

巻頭言

大学改革にあたって



学長
林 勇二郎

国立大学の独立行政法人化についての中間報告が、このほど文部科学省の調査検討会議によってまとめられた。これによると学科等の組織の改編から学外での別法人の設置、教職員の給与や兼職の制度、学生納付金や附属病院の余剰金の自己収入化など、これまで規定と認可で縛られていた多くの事項が、大学の裁量に委ねられることになる。その一方で、運営には外部からの意見を取り入れ、大学が立てる目標・計画に対しては達成度が評価され、その結果が運営交付金に反映される。大学改革の目的とする自主・自律と個性化・多様化は、評価とリンクした競争化の回路で制度設計されている。

このような中間報告を、全国立大学の法人化に向けた路線の整備とすれば、6月に提示された大学構造改革方針(遠山プラン)は、大学を個別に動かす強烈な先制パンチとも言えよう。今や、99の国立大学は再編・統合のための合従連衡に走り、「トップ30」の対策に躍起であり、法人化は潮流となりつつある。潮流には逆らわず、外圧は転機としなければならない。大切なのは流れに乗って自分を見失わないことであり、このためには自らの基盤を強化することである。そこでは、これまでの学内の議論を如何に活かすかが問われよう。

「金沢大学の課題と取組み」は、約1年をかけて議論を重ねたものであり、今本学が置かれている現状を認識した内容は、独法化移行の有無にかかわらず早急に具体化すべきものである。また、8月以来、全学的に検討を進めている「学部・学科の再編・統合」は、本学を研究重視の大学とする上で、その基盤となる学部教育体制の整備である。学際と総合を特徴とする自然科学研究科や人間・社会科学研究科においては、大学院の前期課程を、学問領域を守備する学部の延長にあつて専門領域を深化・拡大する場とし、後期課程の新領域を萌芽するプレ専攻と位置づけている。このような大学院研究科の組織と整合させる上でも、学部学科においては、新分野への転換や社会的要請の高い分野を取り込まなければならないし、副専攻やコース制、免許や資格の取得についても視野に入れる必要がある。そして、このような教育研究体制を機能させるためには、学生の教育組織と教官の組織を分離したデパートメント制が有効かも知れない。他大学との再編・統合や連携は、流れに流されないためにも、新たな個性を引き出すためにも、さらには本学に投げかけられている教員養成の課題に対応するためにも必要であろう。これについては事態の推移を見ながら慎重に進めているところである。

金沢大学は日本海側の基幹大学として、我が国の高等教育と学術研究を先導し、50有余年の歴史を刻んできた。大学改革は軽々であっても愚鈍であってもいけないが、今何をすべきかは、これまでの実績と社会情勢の変化から読み取らなければならない。北方の都に燦たる燈をかかげ続けるためにも、今こそ、全構成員の叡智の結集を期待したい。

目次

医学部附属病院新病棟完成	1	第4回金沢大学 教養教育全学研究会ひらく	8
大学改革にあたって	2	外国語教育シンポジウム	8
最新鋭の設備と新しい診療体制	3	起業家育成セミナー	8
学位記授与式	4	視聴覚で確かめる“くらしの中の放射線”	9
韓国で2001年日本留学フェア	4	法学公開講座「石川21世紀への提案」	9
2001年度AFS短期プログラム生が母国を紹介	4	本年初民間派遣研修	9
第9回日露医学医療交流国際シンポジウム	5	東海・北陸地区国立大学等就職指導担当職員研修会	9
日本地質学会第108回学術大会	5	「ISO認証」取得企業視察	10
第2回「加賀・能登の薬草シンポジウム」	5	金沢大学学生用インターネット利用環境完成	10
薬学部附属薬用植物園主催の市民開放講座	5	及び利用方法説明会	10
第67回日本中部眼科学会	6	モンタナ日記	10
日本生薬学会第48回年会	6	職員の資質向上 =各種研修始まる=	11
金沢大学地球学公開セミナー・プロジェクト	6	「今、ドメスティックバイオレンスについて」	11
「岩石・鉱物・化石の鑑定教室と標本展示」	6	編集後記	11
工学部リカレント教育講座	6	「第18回全国都市緑化いしかわフェア」で	12
「電子・情報・システム技術者のための	6	花壇出展を記念してオープニングセレモニー挙行	12
DSPによるデジタル信号処理技術入門」	6	防火訓練	12
附属看護学校、ベトナムの学校と姉妹校協定結ぶ	7	里山の自然学校	12
後期授業開始前にキャンパス美化	7		

附属病院新病棟

最新鋭の設備と新しい診療体制

9月7日に行われた新病棟の完成記念式典で、河崎一夫医学部附属病院院長は、附属病院の歴史、全国の大学附属病院の中での位置、医学系研究科及びがん研究所の研究を生かした新病棟での高度先端医療実践等について式辞を述べた。併せて新病棟の概要についても説明を行った。

＝新病棟概要＝

新病棟は地上10階、地下1階、東西2つの病棟と2階建ての精神科病棟からなり、延べ面積は4万2,240平方メートルである。病床数は、本学がん研究所附属病院との統合により40床増加し、832床となった。要望の多かった個室を大幅に増やした。【下图参照】

国立大学医学部附属病院としては全国で初めて「防震構造」を採用した。従来の「耐震構造」を上回る安全性を備え、大



河崎病院長

震災にも耐える構造となっている。万一の火災の際には、全室押しボタン一つで排煙窓が一斉に開き、人命安全を最優先する設計となっている。

全病室にはウォッシュレットトイレが備えられている。全ベッドにはテレビ・冷蔵庫、個室には外線電話が

備えられ、プリペイドカードで使用できる。各階には卯辰山を眺望できる食堂があり、患者の希望によりそこで食事ができる。

夜間巡回などの足音が安眠を妨げないように廊下はじゅうたん張りであり、眼科病棟の床下には誘導灯が埋め込まれるなど、患者中心の立場に立ったバリアフリー化が実現している。

また、新病棟完成を機に診療体制も新しくなり、第1内科、第2内科などの番号でわけのではなく、消化器内科、呼吸器内科といった臓器の名称で区分する臓器別診療体制となった。



完成した医学部附属病院の新病棟
＝宝町キャンパス

10階	耳鼻咽喉科 特別室	エレベーター	神経内科 皮膚科
9階	眼科 特別室		腎臓内科 リウマチ・アレルギー内科
8階	消化器外科 内分泌外科		消化器内科 内分泌・代謝内科 循環器内科
7階	整形外科		消化器内科 内分泌・代謝内科 循環器内科
6階	呼吸器外科 心臓血管外科		呼吸器内科 血液内科
5階	産科婦人科 周産母子センター		小児外科、消化器外科 整形外科 産科婦人科
4階	重症回復室 CCU ICU		消化器内科 消化器外科
3階	消化器外科 泌尿器科		小児科 高密度無菌治療病室 院内学級
2階	脳神経外科 歯科口腔外科		神経科、放射線科 核医学診療科 麻酔科蘇生科 アイソトープ病室
1階	薬剤部 合同カンファレンスルーム		防災センター 家族控室 喫煙室、売店
地階	栄養管理室 調理室 洗濯・寝具部	病理部 メモリアルルーム	

西病棟 東病棟 北病棟

病棟構成図

新しい診療科

- 内科
【消化器内科、内分泌・代謝内科、リウマチ・アレルギー内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、血液内科】
- 神経内科 ● 神経科精神科 ● 小児科 ● 放射線科 ● 皮膚科
- 外科
【消化器外科、心臓血管外科、内分泌外科、呼吸器外科、小児外科】
- 整形外科 ● 泌尿器科 ● 眼科 ● 耳鼻咽喉科 ● 産科婦人科
- 麻酔科蘇生科 ● 脳神経外科 ● 核医学診療科 ● 歯科口腔外科

9月のニュースの杜

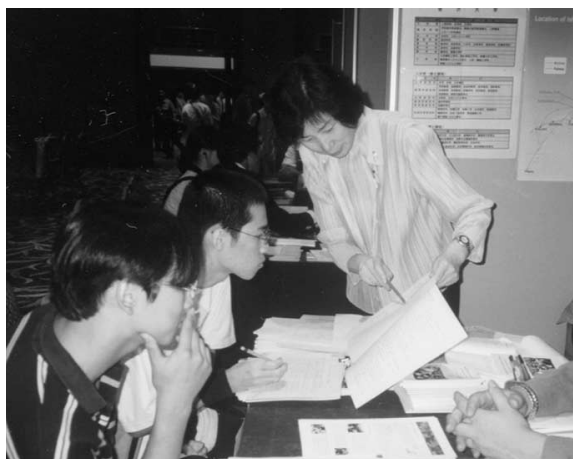
学位記授与式

9月28日、事務局大会議室で自然科学研究科の学位記授与式が挙行された。

学位記授与式では、林学長から大学院前期課程修了者1名、大学院後期課程修了者25名、論文審査合格者9名、計35名に学位記が授与された。



韓国で2001年日本留学フェア



ソウル会場で説明する八重澤教授（右）



釜山会場で

2001年日本留学フェアが9月15日にソウル、17日には釜山を会場に開催され、本学も参加した。

本学からは、八重澤（松下）美知子留学生センター教授及び学生部留学生課小坂與繁留学生教育企画係長が来訪者に対し、金沢大学と金沢について説明を行った。

なお、このフェアは、財団法人日本国際教育協会主催で行われたもの。

2001年度AFS
短期プログラム生が母国を紹介

9月26日、AFS短期プログラム生として本学教育学部附属高等学校に学ぶマレーシアのハニサ・サレインさんによるプレゼンテーションが行われ、マレーシア国旗や民族衣装、学校生活や街の様子が、実物や写真によって紹介された。約30名の参加者からは、マレーシアの若者文化や生活習慣などについて質問があり、会場はなごやかな雰囲気包まれた。



母国マレーシアを紹介するハニサ・サレインさん

学会・シンポジウム

第9回日露医学医療交流
国際シンポジウム

9月4, 5日, 金沢市内で「第9回日露医学医療交流国際シンポジウム」が開催され, 約250名が参加した。

開会式では, 磨伊正義組織委員長(がん研究所教授), 林学長がそれぞれあいさつをした。シンポジウムではロシア側から「内視鏡研修センター報告」, 日露双方から「環境医学(重金属・有機化学・放射性物質)による環境汚染と医学上の問題」の発表が行われた。

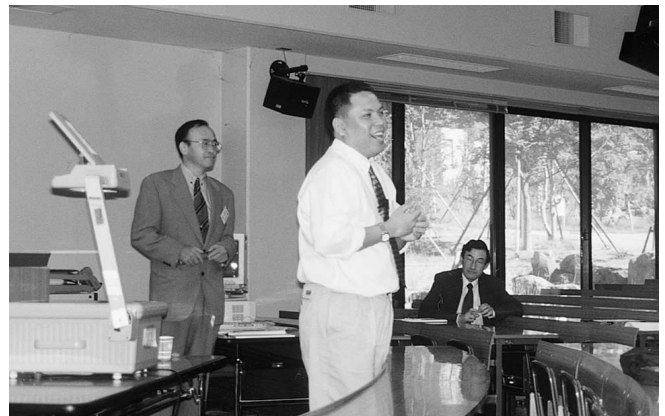


磨伊組織委員長(左)とDorovskikhロシア・アムール医科大学長(右)

日本地質学会
第108回学術大会

9月21日から3日間, 本学を含めた市内3会場で「日本地質学会第108回学術大会」が開催され, 延べ約1,200名が参加した。

大会は口頭発表とポスター展示の形式で行われ, 最新の研究成果が発表された。



理学部と部局間交流協定を結ぶフィリピン大学ディリマン校のグラシアー・ユムル氏(中央)による講演後の講論風景
荒井章司理学部教授(左)と石渡明助教授(右)

第2回「加賀・能登の薬草シンポジウム」
薬学部附属薬用植物園主催の市民開放講座

9月6日及び9日の両日, 薬学部附属薬用植物園主催による第2回「加賀・能登の薬草シンポジウム」が開催された。

1日目は, 医学部十全講堂で薬用植物園研究室の紹介と, 特別講演が行われた。大学院生3名の研究成果と, 特別講演は元国立医薬品食品衛生試験所薬部長の佐竹元吉氏の「ミャンマーにおける薬草栽培」など3題があった。また, 講演会後は薬用植物園見学会が行われた。

2日目は, 尾口村で薬草の野外観察会が行われた。約50名が参加して2つのコースに分かれ, 講師の説明を聞きながら楽しく有意義な山歩きとなった。



尾口村の野外観察会風景

9月のニュースの杜

第67回日本中部眼科学会

9月21日から3日間、第67回日本中部眼科学会が金沢市文化ホールで開催され、約800人が集った。二つのシンポジウムが開かれ、医療事故への対策などについて活発な討議が行われた。

また、柳田邦男氏の講演「患者の安全と医の心」が一般市民も参加できるように公開講演として開催された。柳田氏のあくまでも優しい語り口に、講演後には面談を希望する多くの方が柳田氏の控え室を訪ねた。



講演する柳田氏
語り口はあくまでも優しい



満席の来聴者に柳田氏の
「心」が響いた



控え室で面談者に心を
込めて丁寧に対応。
後列右は河崎病院長

日本生薬学会第48回年会

9月7、8日、日本生薬学会第48回年会在金沢市観光会館で開催され、延べ1,200名を超える参加者を迎えた。

ネットワークを活用し、48年会的ホームページを作成した結果、非会員の参加者が例年の約4割増となった。

学術集会では、会長講演、2つのシンポジウム、学術奨励賞受賞講演が行われた。また、計199の一般講演があり、口頭発表70題、ポスター発表129題が行われた。

また、今回から優秀ポスター賞が設けられた。



ポスター展示会場

金沢大学地球学公開セミナー・プロジェクト
「岩石・鉱物・化石の鑑定教室と標本展示」

8月22日、本学理学部大講義室において、地球学公開セミナー「岩石・鉱物・化石の鑑定教室と標本展示」が開催された。石渡明理学部助教らにより、参加者が持ち寄った岩石・鉱物・化石などの鑑定がおこなわれるとともに、地球学科が保有する岩石などの標本の展示・解説が行われた。



石渡明助教授の説明に聞き入る参加者。右から2人目は神谷隆宏理学部助教

工学部リカレント教育講座
「電子・情報・システム技術者のための
DSPによるデジタル信号処理技術入門」

9月25日から3日間、大学教育開放センター及び工学部主催による工学部リカレント講座「電子・情報・システム技術者のためのDSPによるデジタル信号処理技術入門」が工学部電気情報棟で開催され、民間企業から技術者6名が参加した。



講義風景

トピックス

附属養護学校，ベトナムの学校と姉妹校協定結ぶ

8月27日，教育部附属養護学校とタンマウ障害児学校との姉妹校の協定がベトナム・ホーチミン市にある同校で行われ，本学養護学校からは齋藤和夫校長，浦田東作副校長，柘蔵千恵子教諭らが出席した。これは，柘蔵教諭が数年にわたり同校を訪れ，交流を行ったことから今回の協定に結びついたもの。



タンマウ障害児学校

Vo Thi Khoi タンマウ障害児学校校長(左)と齋藤校長(右)
=タンマウ障害児学校で

彩り鮮やかな衣裳をまとい，踊りを披露した児童と関係者。後列左から5人目が浦田副校長，1人おいて齋藤校長。前列左から2人目が柘蔵教諭

後期授業開始前にキャンパス美化

平成13年度後期キャンパス美化が9月20日から28日にわたり行われた。

9月20日には，角間キャンパスの文・法・経済学部棟で部局と事務局から応援の職員計15名が参加して半日をかけての作業が行われた。職員は，夏に大きく成長した雑草の刈り

込みに加え，キャンパス内に散らばったゴミの回収を行い，10月から始まる後期授業にそなえた。

また，9月26日には，田上小学校の4年生85名が角間川左岸第一調整池付近の草むしりを行った。これは同校児童が以前に植樹した木の保全のため教諭に付き添われて行ったもの。



下草を刈る本学職員



田上小学校4年生による草むしり

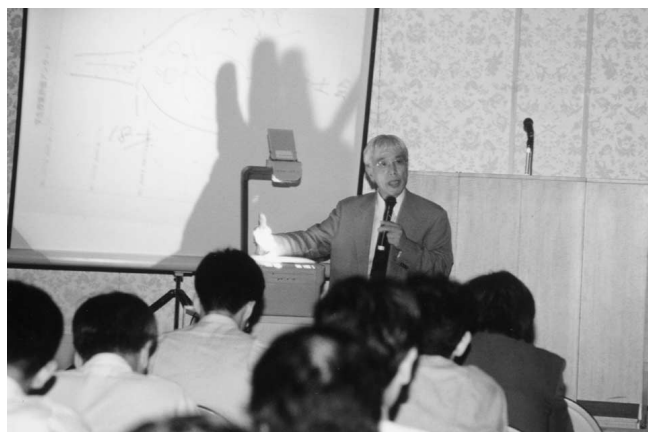
研究会・シンポジウム

第4回金沢大学
教養教育全学研究会ひらく

9月10日、金沢市内のホテルで「第4回金沢大学教養教育全学研究会」が開催され、約150名が参加した。

畑安次副学長のあいさつに続き、林学長が「スチューデント・デベロップメントについて」と題して、これからの学生と大学及び社会等3つの小テーマに分けて講演した。

講演後のシンポジウムでは、他大学での教養教育及び本学学生の視点からの報告がなされた。



OHPを使って講演する林学長

外国語教育シンポジウム



講演する畑副学長

9月11日、総合教育棟で「金沢大学の外国語教育と外国語教育研究センターの在り方について」をテーマに、外国語教育研究センターシンポジウムが行われ、35名が参加した。

畑副学長が「最近の大学教育の動きをめぐって」と題して講演し、三盃隆一外国語教育センター長、澤田茂保同助教授、矢淵孝良同教授が順次外国語教育について今後の教育方針を説明した。

起業家育成セミナー

9月26日から3日間、本学共同研究センターと金沢市が主催して「起業家育成セミナー」が開催された。

創業への意欲をもつ学生・大学院生や社会人など約30名が受講し、廣瀬幸雄共同研究センター長・理学部教授以下8名の講師による講演やビジネスプランの作成などが行われた。

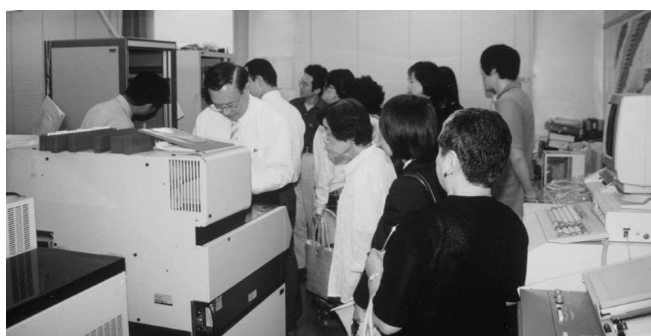


講演する廣瀬共同研究センター長

“学びの秋” 公開講座開講

視聴覚で確かめる “くらしの中の放射線”

9月5日から4回にわたり、本学アイトープ総合センターにおいて、公開講座“くらしの中の放射線”が開催された。初回は中西孝大学教育開放センター長・理学部教授による講義が行われ、13名が参加した。



放射線の測定に参加する受講者
=9月5日

法学公開講座 「石川21世紀への提案」

9月8日から7回にわたり、本学大学教育開放センターにおいて、地方分権、男女共同参画などの現代の課題をふまえた法学公開講座“石川21世紀への提案”が開催された。初回は、中島史雄法学部長による講義「金融破綻と会社役員責任」が行われ、32名が参加した。



講義する中島史雄法学部長
=9月8日

本年初民間派遣研修

本年度から新たに事務職員による民間派遣研修が行われ、8月1日から31日まで本学から総務部国際交流課竹田裕一郎企画主任、教育学部総務係林透事務官両名が参加した。9月11日には両名による「民間派遣研修報告会」が行われ、65名を前に学習成果を発表した。



食品売り場で研修する林事務官
=金沢市内のパートで=

ベッドメイキングに力を
入れる竹田主任
=金沢市内のホテルで=

東海・北陸地区国立大学等 就職指導担当職員研修会



あいさつする畑副学長

9月27、28日、金沢市内で、本学が担当して第2回「東海・北陸地区国立大学等就職指導担当職員研修会」が行われ約40名が参加した。

まず、畑副学長があいさつの中で、金沢大学における各学部の就職支援体制・就職対応について説明した。

引き続き文部科学省高等教育局学生課氏次健調査係長が「就職指導の諸問題について」と題し、大学側と日経連側との就職支援対策・就職観の育成、インターンシップの実施等について講演した。

その後、事例研究等で各大学における就職支援体制について活発な意見交換が行われた。

トピックス

「ISO認証」取得企業視察

9月4日、環境マネジメントシステム（ISO14001）について花岡美代次副学長，水上修一事務局長をはじめ教職員等22名が宇ノ気町のISO認証取得企業の協力を得て同企業の視察をした。



（株PFUの担当者よりISOの説明を受ける
花岡副学長（右）と水上事務局長（中央）

金沢大学学生用インターネット
利用環境完成及び利用方法説明会

9月28日、附属図書館2階閲覧室で学生用インターネット利用環境完成式及び利用方法説明会が行われた。

これにより学生がメールアドレスを自分で取得し、附属図書館、総合教育棟等で自由にインターネットが利用できることになった。早速メールアドレスを登録する学生もいた。



長野勇総合情報処理センター長（中央右）、
和田敬四郎附属図書館長（右から3人目）、小林和久経理部長（右）
＝附属図書館で

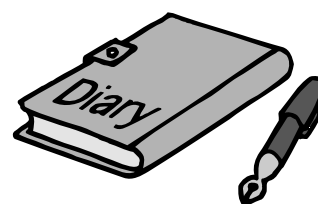
モンタナ日記



モンタナ州立大学で講義を受ける山田さん（左から3人目）

総務部国際交流課山田敦子事務官は、文部科学省主催「平成13年度国際教育交流担当職員研修プログラム」に参加し、6月9日から約1年間アメリカ合衆国モンタナ州立大学を主会場に国際交流関係業務及び語学研修に励んでいる。

山田事務官の近況は「モンタナ日記」として報告があり、同日記は本学のHPに掲載されている。



職員研修

職員の資質向上 = 各種研修始まる =

《簿記研修》

9月5日、事務局で平成13年度簿記研修開講式が行われ、小林和久経理部長は本学昨年の簿記研修の実績及び国立大学独立行政法人化について説明後、「11月に実施される簿記検定試験に向けて頑張ってもらいたい」と受講者30名を激励した。



受講者を激励する小林経理部長

《語学要員養成研修》

9月3日、事務局で平成13年度語学要員養成研修開講式が行われた。

この研修は5コースに分かれ、計16名の受講者は平成14年3月まで行われる研修に励むこととなった。



受講者を前にあいさつする総務部平山英明国際交流課長

サテライト・プラザ

「今、ドメスティックバイオレンスについて」

9月30日、市民を対象としたサテライト・プラザ講演を金沢市中央公民館で開催し、深川明子教育学部教授が「今、ドメスティック・バイオレンスについて」と題するミニ講演を行った。深川教授は、男女差別を根底から問い直すことや、それらを教育に取り入れる必要性などについて語った。



講演する深川教育学部教授

編 集 後 記

10月を迎えて、さまざまな行事取材した半年間を振り返ってみました。

私自身、3月まで本学の学生としてお世話になり、4月からは心機一転事務職員に採用されました。初仕事であった入学式の取材では大変緊張し、同時に、新入生と同じく自分自身も新しい生活がスタートしたのだと実感したことが鮮明に蘇ります。6月の「入学試験合否判定ミス」では、職員としての心構えを学び、そして9月の附属病院新病棟完成記念式典及びがん研究所附属病院閉院では、今後の歴史に残る行事に立ち会うことができたという感動がありました。

さて、このたびの人事異動で、半年間携わってきたアカンサスニュースの制作業務と今回でお別れとなりました。ここに制作に協力し、激励して下さった皆様に感謝申し上げます。 経理部主計課 松岡 洋明（前・総務部企画広報室広報係）

「第18回全国都市緑化いしかわフェア」で 花壇出展を記念してオープニングセレモニー挙行

9月8日から始まった「第18回全国都市緑化いしかわフェア」に本学から「光・水・緑と大地のハーモニー」をテーマに花壇が出展された。これを記念し、9月6日教職員約40名が出席して、金沢城址公園内でオープニングセレモニーが行われた。

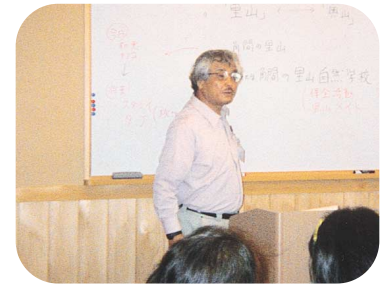


本学が出展した花壇についてはつぽ姿で説明する総務部企画広報室上口大介企画係長

セレモニーでは花壇出展金沢大学実行委員会委員長畑副学長、及び林学長があいさつした後、出展作品のデザインを創出した宮下孝晴教育学部教授が、作品の説明とそれが多くの教員等の協力により完成したことについて謝辞を述べた。

また、同フェアのイベントとして角間の里山自然学校の全面的な協力により「金沢城おもしろ講座」が行われ、中村浩二理学部教授が第1回の講演を行った。

なお、「第18回全国都市緑化いしかわフェア」は11月11日まで開催される。



講演する中村教授

防火訓練

9月26日、総合教育棟で教職員を中心に防火訓練が実施された。

訓練では田中一郎教養教育機構長があいさつをした後、参加者は消火器、消火栓を使用した実践作業を経験した。



消火活動を体験する参加者
＝総合教育棟付近で

里山の自然学校

9月22日、角間の里山で「秋の里山歩き：キノコと植物観察、ドングリ拾い」と「9月の定期保全活動」が開かれ、57名が秋晴れのさわやかな午前中を里山活動で楽しんだ。

キノコの観察では、石川きのこ会の池田良幸さんから、キノコの見分け方や、特徴及び採取法などについて学んだ。



きのこについて説明を熱心に聞く参加者

平成13年10月19日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5022
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。